

症例研究に関する情報公開

症例報告：横行結腸腹壁転移に対してメトロニダゾールゲル（ロゼックス®ゲル 0.75%）と化学療法及び訪問看護師の連携により局所管理できた一例

Successful local management of abdominal wall metastasis with metronidazole gel and chemotherapy and visiting nursing

研究機関名

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪みなと中央病院

研究責任者

谷口 愛子（JCHO 大阪みなと中央病院 看護部）

研究分担者

向坂 英樹（JCHO 大阪みなと中央病院 外科）

作成日：2016 年 4 月 1 日

1. 研究の概要

本症例は、閉塞性横行結腸癌に対して拡大切除術を施行した 60 歳代男性である。術後 2 か月目に腹壁正中中部にがん性皮膚潰瘍を認め、外来にてメトロニダゾールゲル（ロゼックス®ゲル 0.75%）を用いた創傷管理および化学療法を実施した。その結果、腫瘍の縮小、浸出液および悪臭の軽減がみられ、最終的に瘢痕化に至った。

在宅での創傷管理は困難であると考えられたが、訪問看護師による包括的支援の重要性が示唆された症例である。

2. 研究の目的

複雑な創傷管理を要する症例を通して臨床的疑問を深掘りし、新たな知見や実践の有効性を明らかにすることで、医療および看護の質の向上に貢献することを目的とする。

3. 研究方法

1) 研究対象者

複雑な創傷管理を要した、閉塞性横行結腸癌に対して拡大切除術を施行した 60 歳代男性 1 名

2) 研究期間

2015 年 4 月～2016 年 3 月

3) 研究デザイン

症例研究（電子カルテを用いた後方視的調査）

4) 使用する情報の項目

年齢（生年月）、性別

既往歴

身長、体重、BMI

血液学的検査（赤血球数、ヘモグロビン値、白血球数、血小板数）

血液生化学検査（血清 K 値、血清 Na 値、血清クレアチニン値、尿素窒素、AST、ALT）

腫瘍マーカー

創部写真

使用薬剤

5) 個人情報の保護

症例の提示および写真の掲載にあたっては、個人が特定されないよう十分に配慮し、匿名化を行う。

6) 利益相反

本研究において、開示すべき経済的利益関係および利益相反はありません。

7) 研究計画書および個人情報の開示

ご希望があった場合には、個人情報の保護および研究の独創性の確保に支障のない範囲において、本研究計画に関する資料等を閲覧または入手することが可能です。また、本研究における個人情報の開示は、ご本人が希望された場合に限り行います。

なお、個人が特定されない形で学会発表および論文等に公表する予定です。

<問い合わせ・連絡先>

氏名：谷口 愛子

所属：独立行政法人地域医療機能推進機構

大阪みなと中央病院 看護部

電話番号：06-6572-5721

受付時間：平日 9 時～17 時